

第4巻 編集後記

本年も第4巻恵寿総合病院医学雑誌を発刊することができました。本誌をお読みいただいている皆様、投稿いただいた方々に深く感謝致しますとともに、査読委員そして川村編集長をはじめとした編集部の皆様のご努力に敬意を表します。

さて、本巻の掲載論文数は、創刊号が12編、第2巻：19編、第3巻：15編、そして第4巻は13編でした。第4巻の内訳は、総説1編、原著5編、症例報告7編です。

症例報告は、第3巻から大幅に増え7編が掲載されています。その内4編は当院研修医によるものです。年々研修医による執筆が増加しています。ところで、私は長年臨床研修センター長をしていますが、日頃、研修医に対して「記憶に残る研修と記録を残す研修をして欲しい」と言い続けています。なぜ記録を残す研修なのか。それは、文章を書くことがコミュニケーション能力獲得のためには最良の修練になると思うからです。とりわけ、論文を書くことはその修練の頂点に位置すると考えています。コミュニケーション能力は、私たち医療人にとって欠かすことの出来ない最も重要な能力のうちの一つです。患者との1対1の意思疎通やチーム医療での意思統一において、こちらの考えを分かりやすく伝えることや、こちらの説得によって相手を抵抗なく納得させるということは、言うほど簡単ではありません。その能力の育成には相当の時間と労力が必要です。そういう意味で、論文を執筆し「記録を残す」という行為はこの上ない修練の機会です。もちろん論文執筆の意義はこれだけではありません。医学・医療の進歩のため、ひいては患者への貢献のため、読者への情報発信のため、純粋に記録としてなどなど。しかし、コミュニケーション能力の修練という一面があるということを経験医や職員に伝えることによって、もし彼らの論文執筆モチベーションが萎えそうになった時、このことを思い出して気持ちを奮い立たせてもらえればと思っています。そして、一人でも多くの研修医と職員が論文執筆の修練を通じてコミュニケーション能力を磨いて欲しいと期待しています。

最後に、公開とアーカイブを目的に、当院ホームページに本誌の全巻を掲載しています。どうぞご利用ください。また、ご意見、ご要望などがありましたら下記メールアドレスまで遠慮なくお寄せください。編集部一同、お待ちしております。

2016年4月

編集顧問 東 壮太郎

† http://www.keiju.co.jp/iryo/igaku_magazine.html

‡ E-mail: info@keiju.co.jp

査読者一覧 第4巻

下記の先生に投稿論文の審査をして頂きました。お忙しい中ご協力頂き、お礼申し上げます。

鎌田徹 川村研二 木元一仁 津山健
東壮太郎 真智俊彦 宮森弘年 山本健 (五十音順、敬称略)